

いすみ市

有機(オーガニック)給食と有機農業の普及推進について

いすみ市の学校給食は、年間に使用するお米31トン全量が、市内で農薬・化学肥料を使わずに生産された有機米になつています。

有機米の学校給食利用は、安全な食材を提供したいという農家の想いを発端に2015年4トンからはじまり、農業振興や食育、魅力づくりの環境で、2017年から有機野菜の利用もはじまり、8種類の野菜のおよそ12%で有機野菜を使用しています。2023年から保育所・こども園給食での有機野菜の使用もはじまっています。



のが、子どもたちの教育活動です。現在3つの小学校で5年生の総合の学習の時間に、有機米の栽培体験と環境学習、食育を一体としたプログラム「いすみ教育ファーム」を行っており、子どもたちや先生、保護者に大変好評で、給食の残菜が減るといった成果を得ています。



本市の有機給食を支えているのは、まち一体です。持続可能なまちづくりがあり、2012年に協議会を設立し、ゼロから有機農業を普及してきました。現在までに有機米の産地化に成功し、農家の所得が向上しています。

有機給食とともに力を入れているのが、子どもたちの教育活動です。現在3つの小学校で5年生の総合の学習の時間に、有機米の栽培体験と環境学習、食育を一体としたプログラム「いすみ教育ファーム」を行っており、子どもたちや先生、保護者に大変好評で、給食の残菜が減るといった成果を得ています。

有機農産物の利用に伴って給食費の値上げは行っておりません。有機給食には産業振興や食育、移住定住促進など様々な効果があり、保護者に負担増を求めるときではないとして、市の一般財源で予算化されています。なお、2022年10月から給食費は無償化されています。

長柄町

「輝く未来へ 魅力あふれるふるさと長柄町」



■新公民館「ながランホール」

「千葉県の「へそ」に位置する長柄町は、令和4年9月に月岡新町長を迎え、第5次総合計画に基づき「子どもからお年寄りまで生涯活躍の地」をめざし、「生涯を健康で活動的に暮らせるまち」を進むべき方向とし、持続可能なまちづくりに取り組んでいます。

昨年12月からは給食費の無償化に取り組み、この4月からは奨学金返還支援事業を開始するなど、子育てしやすいまちづくり、若者支援を実施しています。6月には、生涯学習の拠点である新公民館の完成記念式典を行いました。(愛称)ながランホールには、移動式観覧席を備えた講堂、開放的な図書スペースが備えられており、今後の活躍が期待されます。町の豊かな自然と地

形、魅力あるスポットを堪能できる4つのコースからなる「長柄町サイクルマップ」も完成し、サイクリストの中で注目を集めています。また、ふるさと納税返礼品には、町内のゴルフ場で使用できるゴルフ場利用券を備えており、皆さまから多くのご寄付をお寄せいただいています。スポーツ等を通じて実際に町へお越しいただくことで、町の魅力を肌で感じられることかと思えます。

近年、移住に関するお問い合わせが増加傾向にあります。移住・定住を検討いただく際には「移住・定住コーディネーター」が丁寧に対応いたします。移住希望者に好評な古民家を備える空き家バンク・空き地バンクと、空き家等利用促進補助金をご活用いただくことで希望者の負担を軽減できるよう事業を推進しています。

四季折々の情景を堪能できる長柄町の魅力を活かし、「輝く未来へ魅力あふれるふるさと長柄町」を創っていくよう今後も全力でまちづくりに取り組んでまいります。

一宮町

オリンピックを踏まえて町の発展を

一宮町は、九十九里南端の太平洋に面した人口1万2千人の町です。外房地域では例外的に人口が減らない町です。サーフィンに適した長い海岸線、緑濃い里山、広々と展開する農地など、豊かな自然が人々を魅了しています。そして上総国一の宮・玉前神社と歴史の香り漂う周辺市街地や、農村地区の重厚な農家建築群、一方、海岸通りのサーフ・ストリートのウエスタンテイストの町並みと、23平方キロと小さい中に、多彩な表情の区域が次々と展開すること

もその魅力のひとつです。さらに、これらの要素を輝かせる根本要因として、外房線が便利で、東京まで毎時1本以上の特急・快速電車があつて、1時間から1時間半で東京駅と結ばれていることがあります。

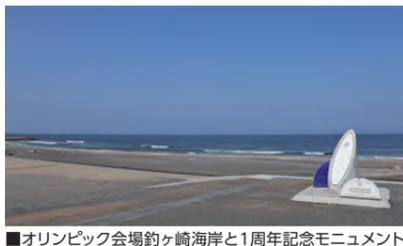
目下の町の戦略としては、釣ヶ崎海岸でオリンピックサーフィン競技が行われたことを受けて、会場周辺に一時避難場所兼道の駅を開設し、地域経済のハブとする計画に取り組んでいます。また、年間70万人の来訪者があるというサーフィンと、農業や

玉前神社での諸活動などを結びつけ、周遊性を確保する新たな観光の形を追求しています。

また、長期にわたって多くの方に住みたい町として選んで頂くために、子育て支援と、教育事業のハード・ソフト両面からの充実をめざしています。移住者には20代30代の若い世代の方が多いので、こうした施策は、将来の町の持続的発展に大きく寄与すると考えています。

7キロにも上る長い砂浜の海岸線があるので、地震時の津波は防災上最大の懸念要因です。海岸部の10m以上のコンクリート建築のカバー率は高いので、的確な避難で命を確保して頂くことを目指しています。

小さいからこそ輝く町として今後もしっかり進んでゆく所存です。



■オリンピック会場釣ヶ崎海岸と1周年記念モニュメント

御宿町

ひと・マチ・自然が つながりつながる 「ちょうどいいまち」御宿

住むのに心地よく、海と山の両方の自然が味わえるまち

御宿町は千葉県の南東に位置し、夏は涼しく、冬は暖かく、年間を通じて過ごしやすい気候です。5km四方のコンパクトな町には海、里山両方の魅力が詰まっております。都会ではないけれど田舎過ぎず、ゆっくりのんびり過すのに「ちょうどいいまち」です。

御宿の魅力の一つに、海の豊かさが挙げられます。御宿の近海は全国有数のイセエビの漁場となっており、県のブランド水産物に認定されています。漁の最盛期に合わせて開かれる「おんじゅく伊勢えび祭り」には、イセエビを目当てに訪れた多くの人で賑わい、遠方から毎年のように来られる方もいます。

また、御宿町には、西暦1609年に御宿沖で座礁したメキシコ船の乗組員を救出したという人命救助の歴史があります。その歴史をもとにした教育プログラム「命の海洋教育」は、子どもたちに命の大切さや町の歴史について知ってもらう機会となっております。



育プログラム「命の海洋教育」は、子どもたちに命の大切さや町の歴史について知ってもらう機会となっております。元全日本代表

イフセーバーから知識や技術を学びます。加えて、「ライフセイビングのまち」として様々なライフセイビング大会の誘致を行っており、大会シーズンには全国からライフセイバーたちが集まります。

生涯にわたり元気でいきいきと暮らせるまち

御宿町は高齢化率県下1位でありながらも、要介護認定率は県内で低い水準を維持しており、生涯にわたって活躍される方が多い町でもあります。

町では、「生涯活躍のまち」推進のため、元気な高齢者が積極的に地域活動に参加できる環境づくりに取り組んでいます。その一つとして、体操や運動を通して健康づくりに繋げる「巡回型元氣いきいき教室」を行っています。教室では、介護予防サポーターとして住民ボランティアが参画しており、参加者やサポーター同士が交流しながら行われています。また、サポーター自らで考案した歌や体操を取り入れられ、参加者が楽しみながら介護予防できるよう様々な工夫がされています。



サポーター同士が交流しながら行われています。また、サポーター自らで考案した歌や体操を取り入れられ、参加者が楽しみながら介護予防できるよう様々な工夫がされています。